西河の翼奇

第　７８　号
令和５年７月３１日
発行人：支部長　栗林正樹
※題字：白川仁一先生
※印刷：さとう総合印刷

「光の柱立つ」

西白河支部長　栗林　正樹

私は、小学４年生の終わり頃から死の恐怖に囚われた。「人はいつまでも生きていることはできない。皆死ぬことになる。自分もそうだ。」と知った。

死とは何か？考えれば考えるほど恐ろしく居ても立っても居られないほど怖いことだった。だからなるだけ考えないようにしていた。しかし、床に就くと真っ暗な部屋で、心臓は早鐘を打ち喉はカラカラ、空気が薄くなったような、私はどうすることもできず、死について考えて考えて疲れて眠りにつく日もあった。朝から頭が痛い日もあった。本を読み出し、昔の人はどうしたのだろうか、どう考えたのだろうか。我が家には明治大正昭和文学全集なるものがあったので、手当たり次第に読んだ。小中学生に内容が分かるわけではなかったと思う。しかし、旧仮名遣いではあったが漢字にはカナが振ってあったので読めた。

思うように行かない高校生活のせいか、死の恐怖はあったが、死んだ方がよいかという全く真逆の自殺念慮へと思いが変化して行った。そのころは「四当五落」と言われていた。私も「死の悩み」には付き纏われつつも、勉強は続けていた。母からは長男の兄は大学にやれるが、お前は大学にやれない、だから、高校卒業したら就職しなさいと言われていた。我が家の経済状況から大学二人は無理というのはよく分かっていた。

ところが、高３になると母から「お前の成績がよくなったので大学に行ってもよい。しっかり勉強しなさい」と言われた。でも、高３は余り勉強ができなかった。国立文系のことを考えないカリキュラムが作られ受ける授業がない者は「図書館で自習」となった。図書館には私立文系や推薦で大学入試はない者や名前さえ書けば合格できるとうそぶいている生徒のたまり場だった。自習などできる雰囲気はなかった。私は仲間と読書をし、岩波古典の「三教指帰」「平家物語」や日本初の大衆小説と言われた「富士に立つ影」などを読んだ。成績はがた落ちだった。85％の確立で受かると言われた国立一期校は桜散る。そして、福大にやっと合格して教員の道を進んだ。

一方では死の影はいよいよ距離を縮め、「死ぬしかない」と思い詰め死の準備を始めた。血染めの遺書も書いた。「父母への先立つ不孝を詫び・・・」また、原理研からの勧誘などもあったが、話は何度聞いても納得がいかず質問を繰り返すと、相手は近づかなくなった

そして、運命の11月福大の28番教室の前の廊下には十数人はいたろうか。まだ終わらぬ授業を待って、窓の外をぼんやり見ていると、金色の葉を付けた銀杏の木の脇に光の柱が真っすぐに立ち昇りかすかに動いている。その光の柱を見つめていると、「死ぬことができないなら生きるしかないじゃないか」という言葉が湧いてきた。私はこの光景と、言葉に救われて生き続けることができたのである。

その後も何度か自殺念慮がふっと影を差すこともあったが乗り切ってきた。死とは母なる大地に帰ること、死の恐怖の呪縛から解放され、死と和解できたと思っている。生きていてよかった。だから、成人式などでは死んではならないということを話してきたし、「命の電話」には毎年寄付をし、増えている若者の自殺防止の支援を続けている。私も死に急がず生き抜く覚悟である。

《おめでとうございます》

この度、村越亮先生が福島県公立学校退職校長会より「賀寿」（満 95 歳）を受けられました。すこぶるお元気でお過ごしです。また、昨年度末に大森邦恩先生、今年度になり福田利家先生、武藤六郎先生が全国連合退職校長会より「賀詞」（満 88 歳）を受けられました。三人の先生方は瑞宝双光章も受章されております。

栗林支部長と大戸副支部長または関根前副支部長がご自宅を訪問し、賀詞状を代理でお渡ししてまいりました。

さらには、金子英昭先生が、この春の叙勲で瑞宝双光章を受章されております。

心からお祝い申し上げます。

大森邦恩先生

福田利家先生

武藤六郎先生

大森邦恩先生
瑞宝双光章受章おめでとうございます

野口意千朗

この度は、叙勲受章まことにおめでとうございます。

大森先生から直接ご教示をいただけたのは、先生が善郷小学校をご退職される最後の一年間だけでしたが、いつも大森先生は、全校集会の時に「姿勢を楽にしてください。」と、子どもたちに気遣いの言葉をかけたり、校庭の遊具を自ら点検したりして、常に子どもたちに寄り添った学校運営をされておりました。

新米教頭であった私は、校務運営上の諸課題を自力解決できず、細かすぎる点まで大森先生にご指導を仰いでしまい、大森先生には大変なご心労をかけてしまいましたが、大森先生は「ははーん、また○○かな。」と、いつも温かくご指導してくださり、事案が解決すると「あー、ご苦労さま。」と、常に労いの言葉をかけてくださいました。年度末に、次年度の校務分掌を決められる際なども「教頭さん、ちょっと校長室に来てみい。いい考えが浮かんだぞ。」と、気さくに声をかけてくださり、最後の最後まで私たちを温かく見守ってくださいました。折りしも当時は、転退職教職員に対しての餞別の廃止や華美な送別の自粛が叫ばれた年でした。大森先生のご退職にあたっても、丁重なお見送りができなかったことを後日談のなかでお詫び申し上げた時などは、「なんだ教頭さん、そんなことを気にしていたのかい。そういうのはなあ、我々管理職が率先して範を示していかないとだめなんだぞい。」と、あらためて諭しの言葉をいただき、そのことは、今でも深い感銘となって心に残っております。

大森先生、どうかこれからも健康に留意され、楽しい人生を過ごしていただきたいと思います。そして私たち後輩を見守り続けていただきたいと願っております。

福田利家先生
瑞宝双光章受章おめでとうございます

鈴木　且雪

福田先生、この度の叙勲誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

先生に最初にお世話になったのは、私が二十代の頃で、「講師」として白河中央中学校においてもらっていた時代です。利家先生は中堅のリーダーとして、学年主任をなさっていらっしゃいました。当時の校長先生や先輩の先生方のお骨折りにより、二年八ヶ月の期間おいていただき、最後の一年間は学級担任をやらせて頂きました。なんとも心許ない担任だったにもかかわらず、先生に励まして頂き、なんとか務まった思い出があります。

二度目にお世話になったのは、白河第二小学校で福田校長先生に、教頭としてお仕えしたときです。利家先生は校長として最後のご退職の年で、しかも、みさか小学校との分離前で、児童数は市内で一番多い大規模校でした。教頭として二校目の勤務でしたが、さぞ頼りない教頭であったことと思います。にもかかわらず、いつも温かく見守って頂き、教頭としてよかれと思ったことを、意欲ある先生方といろいろとやらせて頂きました。忙しい毎日でしたが、時には校長先生のお宅に先生方と共にお招き頂き、餃子パーティーを催して頂きました。手作りの餃子のおいしかったことを覚えています。福田校長先生の懐の深さに、管理職として大切なことを数多く学ぶことができました。

利家先生におかれましては、今後益々お元気で版画やゴルフなどを楽しまれ、充実した人生を送っていただきたいと思います。

武藤六郎先生　米寿・叙勲（瑞宝双光章）誠におめでとうございます

福島　俊男

武藤先生、米寿を迎えられ、そして叙勲受章、心よりお慶び申し上げます。奥様をはじめご家族の皆様のお慶びはいかばかりかと拝察いたします。

武藤先生との出会いは、昭和４５年４月私が１０人に満たない５級僻地の分校から中島中学校に赴任し共に３年生を担任したときに始まります。全く新任と同じ私に学級経営や生徒指導など丁寧にご指導頂きました。お陰様で無事に卒業させることが出来、１０歳しか違わない教え子とは今でもゴルフなどで付き合いがあります。

２度目の出会いは、昭和５８年４月私が白河中央中学校に赴任して３年生を担任したときです。先生は教務主任・３学年主任として学校経営の中核を担っておられました。先生は６月に年間人事で教頭先生にご昇任されました。短い間ですが学校経営の在り方の一端を学んだ気がします。

東中学校長を最後に定年退職された後、矢吹町の幼稚園長として長く幼児教育に携わり多くの功績を残されました。

長寿の秘訣をお聞きしますと、好き嫌いなく何でも食べること、家庭菜園で汗を流すこと、ゴルフを楽しむこととの事です。OBSM 会の会員等として楽しんでおられますが先生にとってのゴルフとはとの問いには、皆さんとの触れ合いや健康の維持そして何よりも楽しいとのことです。まだまだゴルフを楽しんでください。

最後に、今後とも健康に留意されて長寿を重ねられるようお祈りいたします。

この度は、本当におめでとうございました。

金子英昭先生　叙勲受章おめでとうございます

佐藤　和芳

金子英昭先生、瑞宝双光章の受章おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私が金子校長先生にお仕えしたのは、白河第二中学校ででした。大きい学校への赴任に不安が大きかった私に、事前に校長先生がお電話をくださり、「今まで頑張ってきたんだから、そのままやってくれれば大丈夫だからよろしく頼むね。」と励ましてくださり、それで気持ちがすーっと楽になったのを覚えています。その後も常に温かく私を尊重したご指導をいただき、私の教頭時代の中で最も楽しい気持ちで仕事をさせていただけました。

金子校長先生といえば、なんと言っても英語が印象に残っています。英文での読書、また、希望する生徒に昼休みや放課後に校長室で英語の指導をされ、英語検定で高校やそれ以上のレベルに合格する生徒がたくさんいました。また、私たち職員や全校生徒には「やらねば何も変わらない」というスローガンで、何事においてもやろうとする心構えの必要性を示してくださり、「白河二中は県南のリーダー校だ」の気概を持たせてくださいました。校長会などの重要な役職を担われ、あちこち忙しく飛び回りながらも、常に生徒や職員に心を配っていただいていました。

先日、白河二中時代のごく近しい仲間で校長先生の受章祝賀の会を催し、久しぶりにお会いして楽しい時間を過ごさせていただきました。現在はバドミントンやボルダリング、登山にも打ち込まれているとのことでした。今後もお元気で、変わらず私たちにご指導くださいますようお願い申し上げます。

『新会員の先生方から』

「新たな時代に向かって」

渡邉　康一

退職校長会の皆様には、現職中は公私ともに大変お世話になり、お陰様で今年の３月に熊倉小学校で定年退職を迎えることができました。過日の総会での新入会員あいさつでは、新採用の頃を思い出し、久しぶりに緊張しました。同時に、無事に退職できたのも、先輩の皆様のご厚情によるものであり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

４月からは、西郷村中央公民館に勤務し、社会教育士の資格をいかしながら、地域づくり・人づくり・関係づくりを推進しています。

また、某教育新聞のフリーライターとして、関東・東北地方の学校を訪問し、先進的・実効的な取組を全国に発信しています。

令和の新たな時代に向け、ネットワークとコミュニケーションを大切にし、楽しみながら未来をデザインしていきたいと思います。

皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「よろしくお願いいたします」

井上久仁夫

昭和６０年４月、新採用教員として白河第二小学校に赴任し、今年３月、同じく白河二小で定年退職しました。会津生まれの私にとって、縁もゆかりもない白河に住み着くことになるとは思ってもいないことでした。幸いなことにどの学校でもよい人間関係に支えられ楽しく思い出に残る日々を過ごすことができました。また、行政での勤務は、学校や教職を外から見る貴重な時間となり、多種多様の業務を通して全県の先生方と知り合うことができ、大きな財産となりました。

この度、退職校長会に入会させていただきましたが、現在も白河第五小学校で再任用校長として勤務しております。１９３名の子どもたちに囲まれ、２２名の教育への情熱・研修意欲にあふれる教職員と一緒に笑顔あふれる学校を目指して楽しい日々を過ごしています。

「一日一歩」

加藤　正行

先輩の先生方、同僚、保護者や地域の皆様に支えられたおかげで、３月に定年退職いたしました。皆様に心より感謝申し上げます。

今、教員としての自分を振り返ると、失敗ばかりが思い出されます。なぜか、小学生の時に鼓笛で演奏した「三百六十五歩のマーチ」の歌詞、「三歩進んで　二歩さがる」が重なり、一歩でも進んでいたとすれば上出来です。

これからは、長年の教員生活、特にのべ 10 年間の単身赴任中も家族を支え続けてくれた妻とともに、ゆったりと生活したいと思います。

また、長男でありながら、離れて暮らす私を応援してくれた父母への恩返しの時間も大切にして、「一日一歩　三日で三歩」歩んでいければ幸いです。

退職校長会の皆様には、今後もたいへんお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

『令和５年度第５９回支部総会』開催！

今年度は平常通りの総会を開催することができました。

議事に先立ち、賀詞の贈呈があり栗林正樹先生が支部から喜寿賀詞状を受け取りました。珍寿と米寿については支部長、副支部長がお宅を訪問し贈呈します。

総議長は、慣例により、中島村の評議員木村敏夫先生が務められました。

議事では、現職校長との交流会について今年度は実施できるのではないか、いずれにしてもコロナ感染状況を見ながら現職の小中学校長会などの意見も聞きながら実施の可否を検討していきたいこと、また、例年 10 月ごろ実施して来た親睦旅行などもその是非を慎重に検討し、その結果は 1 か月以上前には皆様にお知らせしていくことなどが協議され承認されました。

クラブの実践報告では、以下の活動日と主な活動内容の紹介がありました。

◎囲碁クラブ【毎月第二月曜日】

◎ゴルフクラブ、【１月を除く毎月第一火曜日】

里山散策クラブは、残念ながら令和４年度をもって活動を停止することになりました。

令和５年度は３名の新入会員を迎え１４７名の会員数になりました。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

『第５７回福島県公立学校退職校長会』

６月１４日郡山ビューホテルアネックスに於いて２３６名参加のもと郡山大会が開催されました。３年ぶりの県大会には、西白河地区から１７名が参加しました。

開会式に引き続き安積国造神社宮司、安藤智重氏により「近代日本の礎」と題して安積艮斎が近代日本の思想・教育へ与えた影響等について講演がありました。

午後は福島支部宍戸仙助先生、南会津支部小林宗一先生、相馬支部吉田雄二先生による個性豊かな体験発表がありました。

閉会式では次年度開催地の安達地区伊藤末吉支部長よりあいさつがありました。

郡山地区の実行委員の皆様の緻密な計画と周到な準備で充実した大会となりました。

《ご冥福をお祈り申し上げます》

星桂太郎先生　令和５年３月２５日ご逝去

長嶺　節先生　令和５年６月　６日ご逝去

《編集後記》

コロナ前の日常が戻りつつありうれしく思います。ひざを交えて酒を酌み交わせる日が戻ってきますように！　広報係